

資金の要素をいれて、採用に当たっては面接を実施し、研究活動状況を把握している。

＜日本学術振興会特別研究員の応募数と採択数（新規採択数のみ）＞

	応募数	採択数
2002年度	6名	1名
2003年度	9名	1名
2004年度	6名	1名
2005年度	12名	2名

4. 成績評価については各教員に任されている。

（点検・評価の結果）

COEプログラムとの連携を強化した結果、目標がより具体的になり、COE若手研究者研究成果発表会、研究費受給者報告会などの多くの成果公開の場が設けられ、複数の教員による透明性のある評価が実施されるようになってきている。しかし、前期課程にはCOEプログラムの適用ができないため、教育・研究指導の効果については個別の教員に任されている。授業評価と共に成績評価方法のある程度の標準化などを改善する必要がある。

（改善の具体的方策）

前期課程の教育・研究指導とその効果測定については、ある程度の一貫した標準的な教育プログラムが必要であり、FDを前期課程においても実施する方向で検討する。

後期課程については課程博士キャンディデート取得プロセスに準拠した、教育プログラムの構築、標準的評価方法について検討する。

3.2.3.5 教育の質の向上

【評価項目 6-5-1】 教育改善への組織的な取り組み（教育・研究指導の改善）

（必須要素）教員の教育・研究指導方法の改善を促進するための組織的な取り組み状況

（必須要素）シラバスの作成と活用状況

（必須要素）学生による授業評価の活用状況

（選択要素）学生満足度調査の導入状況

（選択要素）卒業生に対し、在学時の教育内容・方法を評価させる仕組みの導入状況

（選択要素）高等教育機関、研究所、企業等の雇用主による卒業生評価の導入状況

＜2003年度に設定した目標＞

1. 教育・研究指導方法の改善に資す目的で、公開の研究報告会、合同ゼミなどをおして指導教員、副指導教員およびその他関連の教員による公開指導を定期的を持つ。
2. 講義科目については、シラバスの記述内容をより詳細にする。
3. 授業評価システムの導入を検討する。

(現状の説明)

1. 2003年度より研究科博士課程大学院学生全員の報告を義務づけた公開の研究報告会を年に一度開催し、公開指導をおこなっている。
2. 大学院要覧授業実施要綱として、授業の概要を作成している。
3. 授業評価システムについてはいまのところ、個別の教員ごとに個別の方法でおこなっている。

(点検・評価の結果)

1. 公開の研究報告会が教員の教育・研究指導方法の改善を促進するための公開指導の場であるという認識がまだ浸透しておらず、教員の参加が十分とは言えない。また年に1回の公開指導によって指導方法の改善が図られているかどうかについてもやや不明瞭である。
2. 目標設定時以降、2003年度よりシラバスの記述方法が全学的にマニュアル化されたため、講義科目についてはかなり詳細に内容、目標、スケジュールなどが記載されているが、評価システムがないためシラバスの活用状況については十分に把握できていない。演習については個々の教員に任されており、シラバスに内容が十分には反映されていない。シラバスの記述が講義科目についてはやや抽象的・概略的である。
3. 授業評価システムについては、いまだ導入されていないが、全学的に取り組むためのFD検討ワーキンググループがつくられ、本研究科からも議論に加わっている。

(改善の具体的方策)

1. 公開指導の機会とともに、その後の教員間の情報交換、大学院学生からのフィードバックの方法について検討する。
2. シラバスの活用状況については授業評価システムの導入によって把握する必要がある。演習についても指導内容・方法を可能な限り記述する方向で検討する。
3. 授業評価システムについては、全学的なFD検討とは別に研究科独自の方法も模索する。

3.2.3.6 学位授与・課程修了の認定

【評価項目 6-6-1】 学位授与

- (必須要素) 修士・博士の各々の学位の授与状況と学位の授与方針・基準の適切性
- (必須要素) 学位審査の透明性・客観性を高める措置の導入状況とその適切性
- (選択要素) 修士論文に代替できる課題研究に対する学位認定の水準の適切性
- (選択要素) 学位論文審査における当該大学(院)関係者以外の研究者の関与の状況
- (選択要素) 留学生に学位を授与するにあたり、日本語指導等講じられている配慮措置の適切性

【評価項目 6-6-2】 課程修了の認定

- (必須要素) 標準修業年限未滿で修了することを認めている大学院における、そうした措置の適切性、妥当性